

「NCNPメディア塾」の 取り組みについて

平成29年12月4日

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（NCNP）
トランスレーショナル・メディカルセンター、センター長
（神経研究所 疾病研究第四部長 併任）
（企画戦略室長補佐 併任）

和田 圭司

■ 内容

- NCNPメディア塾とは
- 開始に至るまで
- 開催内容
- 効果について





1. 「NCNPメディア塾」とは

“NCNPが提供するジャーナリストのための学校”

「広報の仕掛け人たち」より

ジャーナリストと医療者・研究者が、リアルなコミュニケーションの場を形成し、正しい医療・研究の情報を共有する場。

ジャーナリスト:

関心はあるけれども、精神・神経領域は難しい。

医療者、研究者:

正しい情報を正しい形で記事として伝えて欲しい。

NCNP:

信頼性の高い医療・研究情報の提供使命を有する。

2. 「NCNPメディア塾」 (ホームページより)

NCNPの第一線の研究者・医師たちとジャーナリストの皆様方が一同に集まり、新しい対話の場を2014年度よりスタートしています。

脳とところに関連する、精神・神経疾患の医療と研究の取材に必要な基本情報と最先端の情報をお伝えするために、基礎から学んでいただける座学とともに、メディアの皆様とのディスカッションを行う機会も多く取り入れ、互いに学び合う環境作りの一つとして「NCNPメディア塾」を企画致しました。

● 目的

近年、脳とところに関連する、精神や神経の疾患に対する社会的関心が高まっているのは周知の通りです。しかしながら、そのニーズに応えるだけの正確で十分な情報が提供されていないのが現実です。

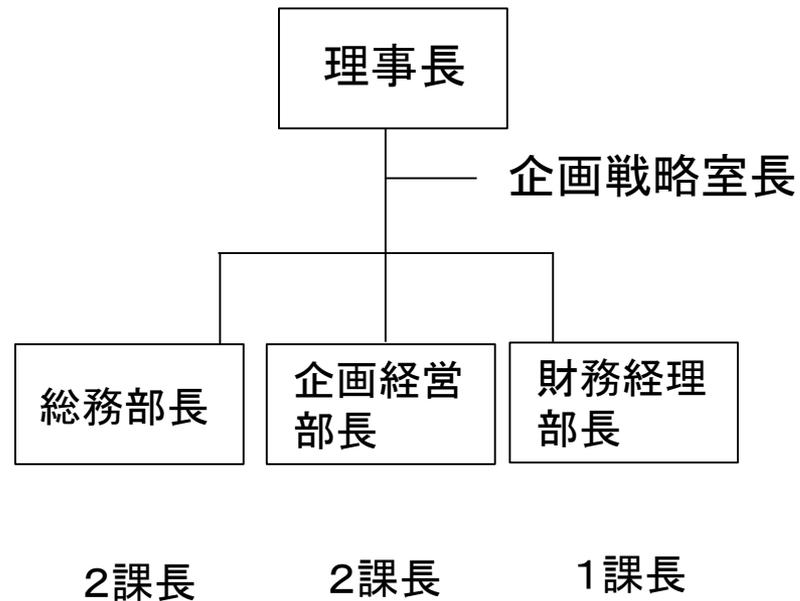
NCNPは、精神・神経・筋の疾病、発達障害の克服をめざすナショナルセンターとして、最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることも使命としています。

その使命を実現する一環として、記者やジャーナリストの皆様を対象とする「NCNPメディア塾」を企画致しました。

メディアの皆様が精神・神経領域の取材を行うに当たって、最低限理解しておくべき知識を現代社会との関係性の中で学んでいただくとともに、国民から真に求められている情報に係る報道のあり方を考える場として、今後も毎年開催する予定です。

“契機：独法化”

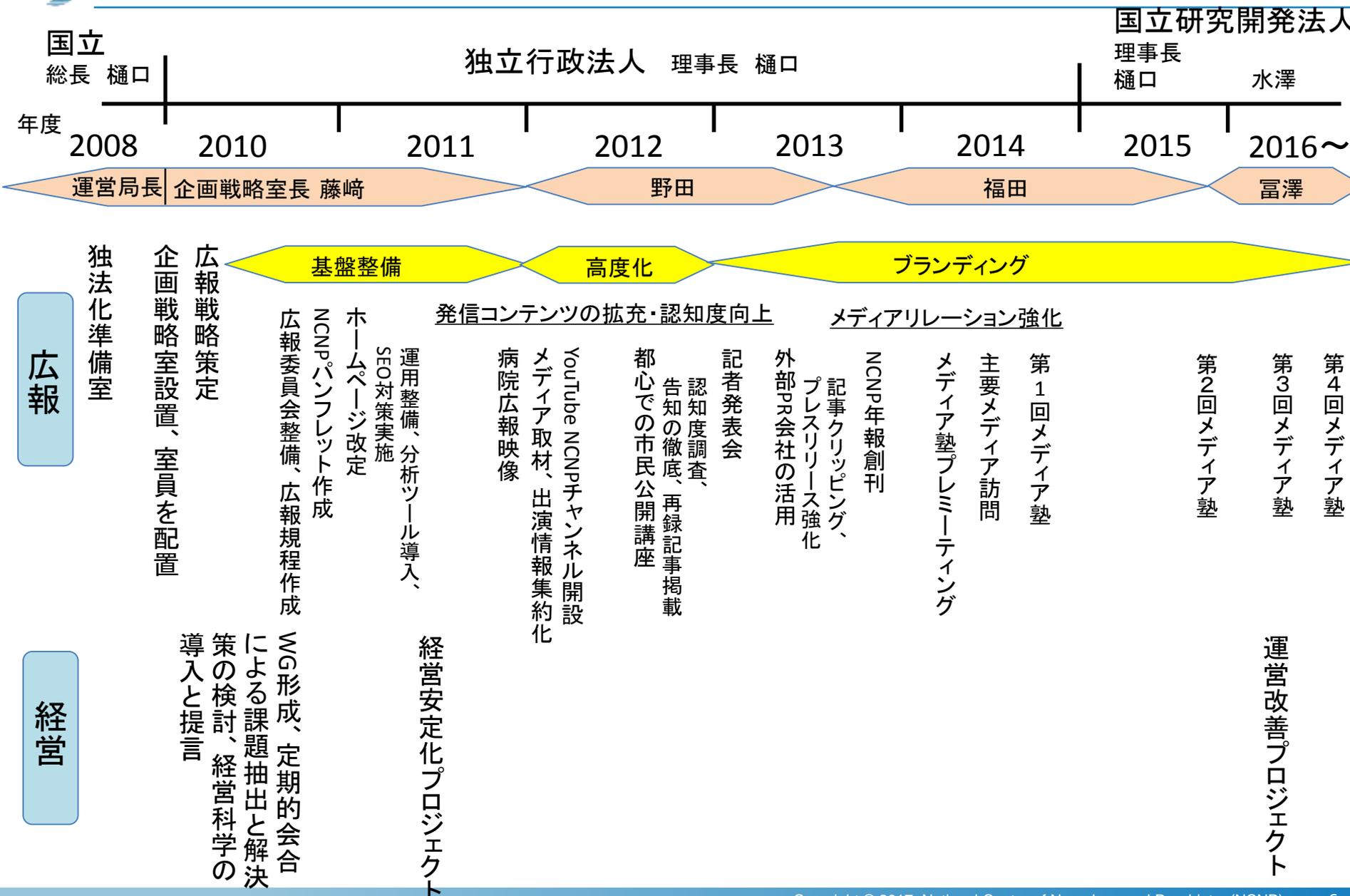
独法化後



NCNPは企画戦略室長のもとに、
企画戦略室を設け、室員を配置した。



4. NCNP企画戦略室の取り組み



5. 「NCNPメディア塾」開始に至るまで：実施の背景

全てはゼロからのスタート

- ・2010年度の独法化直後のNCNPでは“**広報マインドも乏しく、広報機能不在**”
- ・企画戦略室を中心に、2011年度には**広報ロードマップ**を策定、広報**意思決定**の為の規程を策定
- ・NCNP市民公開講座のイベントを活かして広報活動モデルを構築し、2012年度には**広報組織**を整備
- ・“NCNPの見える化・わかる化”を広報コンセプトとしてアクションプランを展開
- ・NCNP認知度向上を図るため、ブランディングの1施策として、メディアリレーション構築・強化を掲げ、**2012年度からメディアへの発信強化**をスタート
- ・大手新聞社の医療・科学系記者・ジャーナリストの方々にとって、NCNPの事業ドメインである“**精神・神経・筋・発達障害領域**”は「**社会的関心が高いテーマにもかかわらず、記者の知識・情報不足のために**
取材(心理)ハードルが高い」、という事実があることを確認
- ・「NCNPメディア塾」はジャーナリストの課題ニーズを解決するものとして正しい医療・研究の情報形成とリアルなコミュニケーションの場を形にして生まれました。
また、NCNPとしても信頼性の高い医療・研究情報の提供使命を発揮する機会となりました。
- ・「NCNPメディア塾」は**企画立案段階から大手新聞社の記者の数名の方々に参画頂き創設**したもので、
今も尚、改善を積み重ねて“**共創&協働発展**”させていきます。

■ 6. 開催内容

別添のパンフレット参照



7. 「NCNPメディア塾」 結果状況：参加意向度

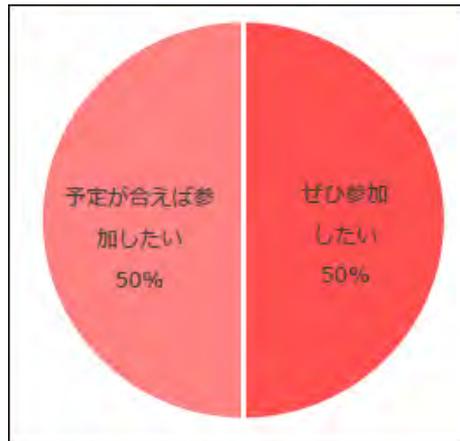
Q. 来年以降も参加したいですか？：「参加したい」

第1回

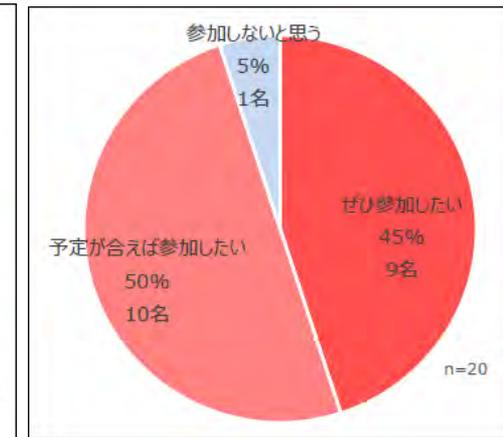
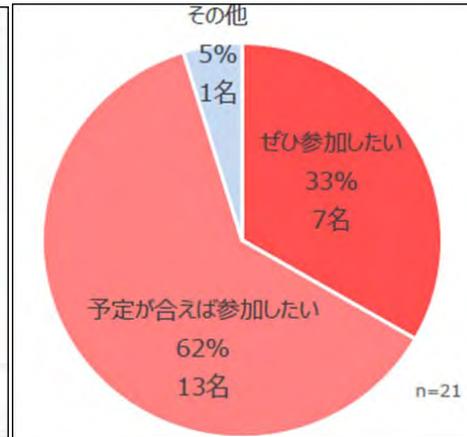
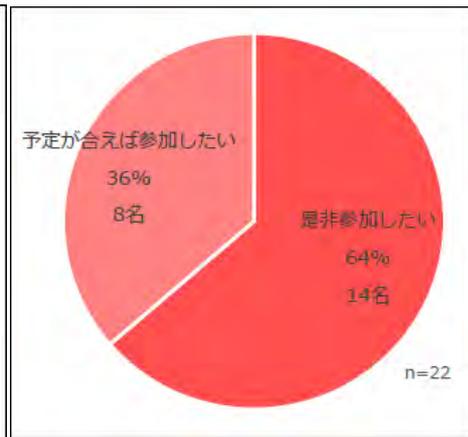
第2回

第3回

第4回



N=22



※その他：プログラムの内容をみて検討したい
 参加しないと思う：もう少し包括的に病気や制度を学ぶ内容でも良いのでは？

8. 「NCNPメディア塾」 結果状況：推奨意向度

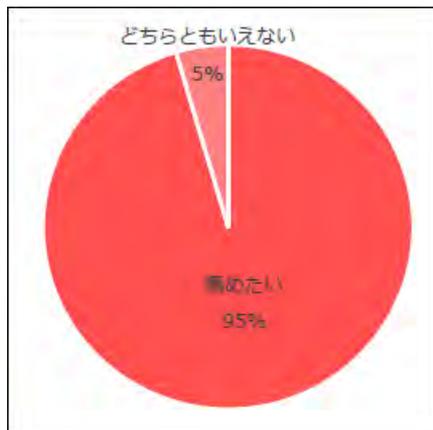
Q. 今後社内の人に受講を薦めたいですか: 「薦めたい」

第1回

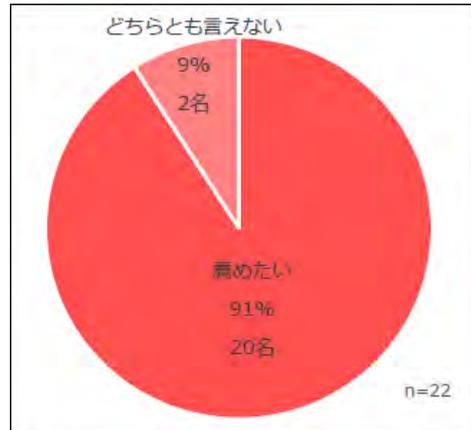
第2回

第3回

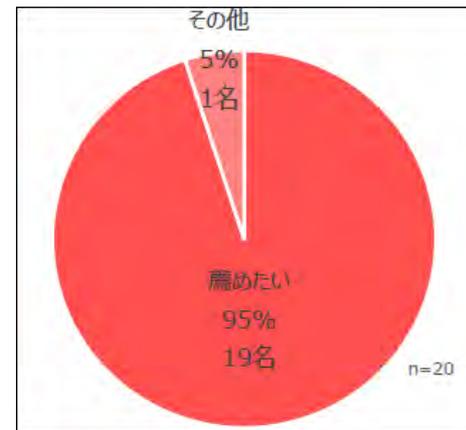
第4回



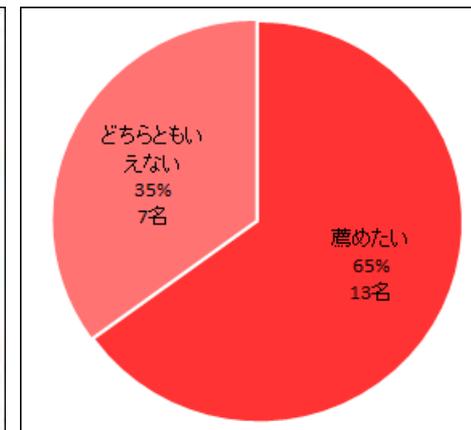
N=22



n=22



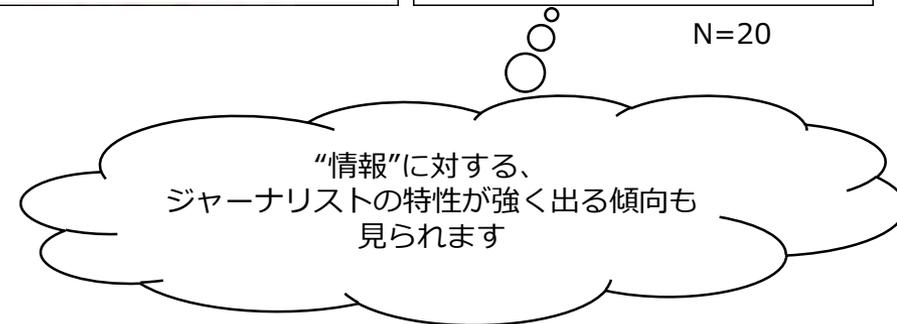
n=20



N=20

※どちらともいえない、その他：

- ・フリージャーナリストの方々には社内紹介者がいない
- ・テーマによる
- ・記者それぞれの興味は異なるので
- ・社内は縦割りなので、1日割けるかどうか分からないから
- ・精神、神経領分野に関心がある同僚には薦めてもよい



9. 「NCNPメディア塾」を進めることとなった推進力 (KSFや継続していく為に重要なこと)

広報機能の整備・強化が推し進められていたこと

- ・企業経営と同じく広報戦略ビジョン～広報マネジメントを推進できる環境と広報機能の強化推進の基盤が整備できていること、さらに広報官の理解とリーダーシップは重要な要素

事前リサーチの実施

- ・創設するにあたり、他のメディアセミナーの**スタディ**を実施
(がんセンター、NIHのMedicine in the Media、東京大学医療政策人材養成講座(HSP) 等)

外部パートナーの獲得

- ・**外部リソース**の活用(メディアコンタクトとメディアニーズの把握、メディアリスト構築を実務面から実現できるPR会社を発掘、プロジェクトをスタート)
- ・**企業実務経験者**を確保

成功ゴールイメージ共有化と実現化 (関係者理解と調整)

「NCNPメディア塾」マーケティング戦略

- ・講義**コンセプト**の設計(魅力的なタイトル作り)
- ・物理的環境や参加環境の検討(小平地区でも参加率を高める努力)
- ・**プロモーション**の工夫(メディア訪問、過去参加者への早期案内、ニーズ対応)
- ・参加者メンバー(記者・ジャーナリスト)の“顔ぶれ”も、参加者の期待や評価を更に向上

“共創”

- ・企画立案段階から参画頂いた大手新聞社の記者数名を中心に、改善を積み重ねた共創&“協働発展”を実施

■リーダーの存在

理解する上司、否定しない上司
戦略を立てるプロジェクトリーダーの存在

■意気に感じる職員の存在

広報に関心を示す職員の存在（研究者、医師、事務方）
民間出身者による現場実務

■理解のある報道機関社員、並びに媒介者（翻訳者）の存在

企画立案に当初から参加
適切なアドバイス

1 1. 「NCNPメディア塾」による効果（質的効果）

脳とこころ、難治性疾患領域における、信頼性の高い医療・研究情報が集まる“プラットフォーム”として、NCNPブランド認知度向上、ブランドアイデンティティが向上してきている

●対・患者さん

・“生きていくことにあきらめが生じていた中、報道記事を見て、NCNPセンター病院へ検査入院し、仕事復帰まで実現した”
（パーキンソン病患者さん）

●対・メディア

- ・“NCNPのプレスリリースを全てチェックしている”（某新聞社記者）
- ・“なかなか取材できない医師・研究者からの話がまとめて勉強でき、交流を深めることができる”
- ・科学・医療分野の記者・ジャーナリストへのNCNP知名度の浸透（認知度UP）
※PR・マーケティング業界でも「NCNPメディア塾」は知られています

●対・職員

- ・“勤務期間はこんなに素晴らしい病院だとは気付かずに 仕事をしておりました。もっと早くにこんな最先端の所にいるということを勉強すればよかったと痛感しています。”（退職した元NCNP看護師）
- ・“取材・報道記事につながり、望ましい報道につながっている、研究継続のための研究費獲得につながっている“

PR・マーケティング業界書籍にも紹介された

広報の仕掛け人たち（2016年3月発刊）

第8章 記者と研究者を強固に結びつける
「メディア塾」がもたらした効果



“いわば、病院が「メディア向けの学校」をつくったようなものです。その手があったかというやり方ですね。”

（博報堂ケトル代表取締役社長 コメントより）

13. 「NCNPメディア塾」がNCNPにもたらしたこと

■メディアリレーションの向上

- ・更なるニーズの高まり:NCNP広報への内外からの期待度が上昇
- ・「NCNPメディア塾」に関するメディア業界のみならず、PR業界における認知度も増加
- ・NCNPに関して医療・科学領域の記者・ジャーナリストの認知度・理解度が増加
- ・報道記事数の拡大、正しい報道の維持

■職員の広報意識の向上

- ・プレスリリース相談、市民公開講座の告知集客の相談等、広報情報の集約化が進展

■新たな取り組みの企画

- ・“個別テーマメディア塾”の開催:参加ジャーナリストからの個別ニーズに対応して「災害取材におけるPFA研修」を開催
- ・メディア側から、個別メディアセミナー(都心会場)へのニーズが浮上(計画中であるが、実現化のための“原資”がボトルネック)

NCNP広報における**当初**の最大の課題は
「組織内に広報機能・ノウハウも、広報プロフェッショナルも
存在しなかったこと」

施策1

現状分析～問題提起～改善策の具体的実施までをプロモートする専任者を配置する
必要があったため、企画戦略室専任室員として民間企業経験を有する外部人材を確保

施策2

企業広報部門の立ち上げ実績・経験者が存在するPR会社をパートナーに選定

- ・実務面のゴールを共に支えてスタートアップを支援するハンズオン型パートナー
「企画立案、取材誘致、プレスリリース実績の増加、メディアセミナーの増加 等」
- ・その後、ノウハウ獲得と“広報の半自立化”への道を進めた

独法でなければ広報強化の必要性も、「NCNPメディア塾」も誕生しなかった

国民にも、メディアにも、認知度が低く記憶に残りづらい長い組織名を持つNCNPにとって、広報機能の強化は優先度の高い課題の一つであった。

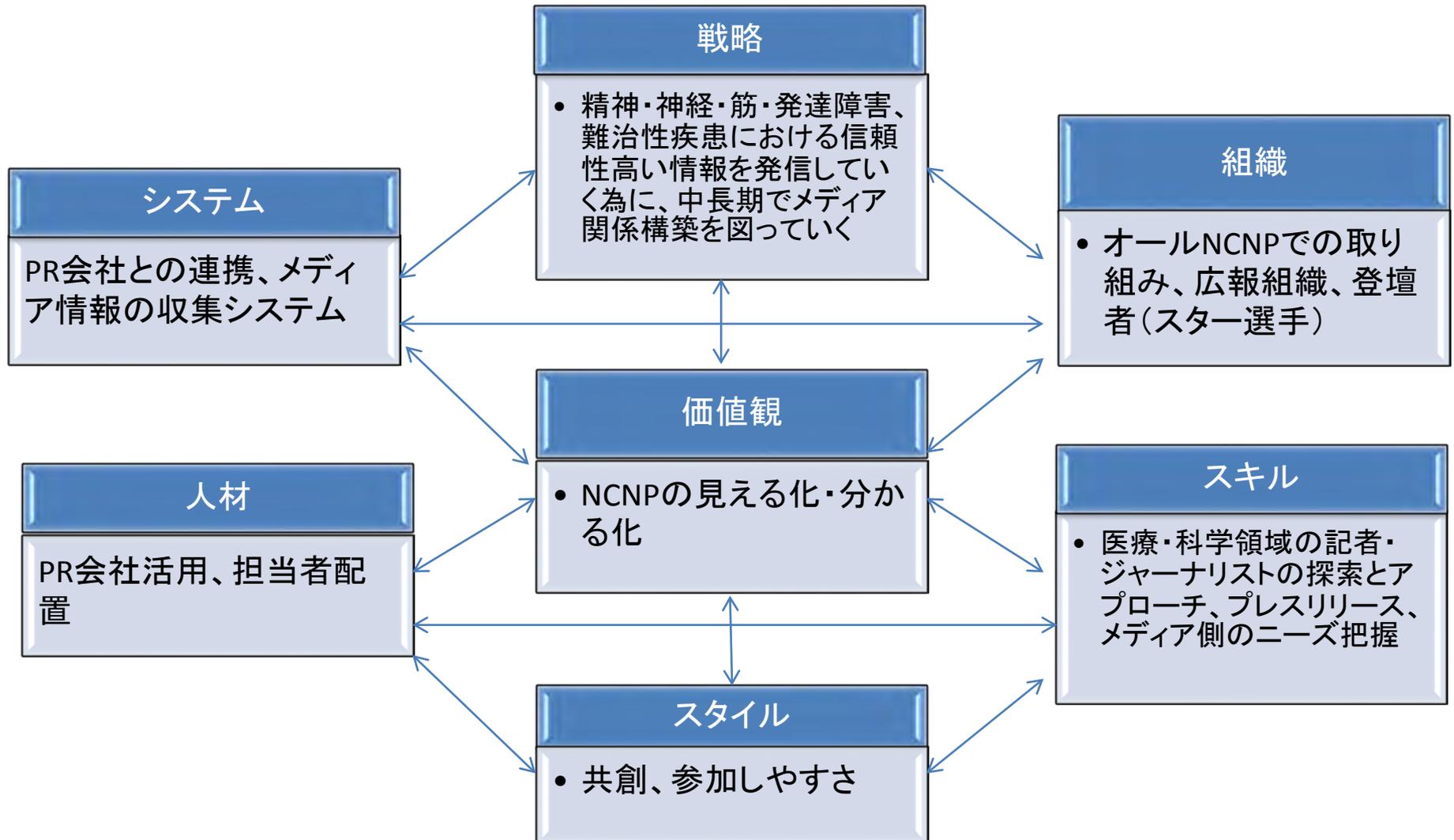
広報強化にあたり、ベストプラクティスとして理化学研究所・広報室を訪問し、

- ①「理研がトップダウンで職員全員が広報マインドを持って活動することを理念に掲げていること、
- ②”RIKEN”ブランド目標としてNIHやマックスプランク等をベンチマーキングとして
- ③活動の成果には独法評価にもつながることを」オール理研で展開している実態

に刺激を受けた。

NCNPの可視化を高めていくこと、そして、活動を「見える化・わかる化」することを戦略スローガンとして推し進めた。

「NCNPメディア塾」の7S モデル ※マッキンゼー提唱



NCNP内の少ない内部リソースでは、円滑な広報機能を発揮することが難しく、特に「NCNPメディア塾」の高い成果を今後も継続するには、メディア各社との密接な関係を維持継続している外部リソースの活用が必要。

NCNPをよく理解しているPR会社等の外部プロフェッショナルの継続的な活用が「NCNPメディア塾」の成功を大きく左右すると考えられる。

メディア塾に関わる全てのプレイヤーが喜んで参画・目標達成意欲が生まれる契約のあり方、財源確保を改善することが必要。

(別添)

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 主催

第1回 NCNPメディア塾 受講生募集のご案内

2014年8月22日(金)・23日(土) 開催

NCNPの第一線の研究者・医師たちとジャーナリストの皆様方が
一同に集まり、新しい対話の場をスタートさせます。
精神・神経疾患の取材に必要な基本情報と最先端の情報を2日間でお伝えします。



本講座は、限られた時間内で
充実した講義とディスカッションを行うため、
合宿形式で開講いたします。

対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、広く一般の方に向けて情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリストの方
- 取材経験3年以上の方
- 基本的に2日間の研修コースに全て参加できる方

修了証の発行

本研修の80%以上の講義に出席いただいた受講者には、「修了証」を発行します

講座概要

開催日程：2014年8月22日(金)～23日(土) 1泊2日

講義時間：1コマ 90分×10コマ

定員：30名

会場：JTBフォレスト

最寄り駅：京王線・小田急線「永山駅」より徒歩3分

受講料金：19,000円(税抜)

(研修会場までの交通費は各自のご負担となります。その他詳細はお問い合わせください。)

宿泊施設

JTBフォレスト (シングルルーム)

東京都多摩市永山2-1-7 TEL:042-339-9500

食事

22日(金) 昼食・立食ディナー(意見交換会)

23日(土) 朝食・昼食

お問い合わせ先

NCNPメディア塾事務局

担当：荒木(株式会社ココノッツ)

TEL:03-5212-4888 FAX:03-5212-4887

E-mail: mediaseminar@cocoknots.co.jp



■ 第1回NCNPメディア塾 受講のご案内

「脳とこころの問題と社会的課題への対応を考える」

近年、精神や神経の疾患に対する社会的関心が高まっているのは周知の通りです。しかしながら、そのニーズに応えるだけの正確で十分な情報が提供されていないのが現実です。

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター（NCNP）は、精神・神経・筋の疾病、発達障害の克服をめざすナショナルセンターとして、最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることも使命としています。

この度、その使命を実現する一環として、記者やジャーナリストの皆様の「NCNPメディア塾」を企画いたしました。メディアの皆様が精神・神経領域の取材を行うに当たって、最小限理解しておくべき知識を現代社会との関係性の中で学んでいた

き、また国民から真に求められている情報に係る報道のあり方を考える場として、今後毎年開催する予定です。

精神、神経領域を基礎から学んでいただける座学とともに、各セッションにおいて研究者・医師とメディアの皆様がディスカッションを行う機会をできるだけ多く取り入れ、互いに学び合う環境づくりに努めてまいります。

第一回目のメディア塾は一泊二日の集中コースといたしました。今後、参加者からのご意見などを取り入れ、メディアの皆様とともに継続的でよりよいメディア塾へと発展させていきたいと思っております。

本プログラムの趣旨にご賛同いただけるメディアの皆様のご参加をお待ちしております。

■ カリキュラム

8月22日
(金)

9:30	■ オリエンテーション	
9:55	1 DSM-5 はなぜ作られ、DSM-5 はなぜ批判されたのか	大野 裕
11:05	2 精神疾患診断と法律判断	岡田 幸之
12:45	3 災害時に精神医療が果たすべきこと	金 吉晴
14:25	4 「脱法ドラッグ」— その乱用実態から依存性・毒性、治療まで —	和田 清
16:05	5 睡眠の都市伝説を斬る	三島 和夫
17:45	6 「神経疾患」の誤解を解く	村田 美穂
19:30	■ フリーディスカッション	本講座講師陣 他

8月23日
(土)

9:20	7 次世代型シークエンスは医療をどう変えるか	後藤 雄一
11:00	8 脳は身体から解放されうるのか	花川 隆
13:30	9 統合失調症とどうつき合うか	中込 和幸
15:10	10 うつ病の常識は本当か	功刀 浩
16:50	■ 修了証授与	

■ 講師陣



大野 裕 (おおの ゆたか)
認知行動療法センター長
1978年慶應義塾大学医学部卒。
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、コーネル大学医学部 visiting fellow、ペンシルベニア大学医学部 clinical visit、慶應義塾大学医学部精神神経科 専任講師、慶應義塾大学教授等を経て、2011年より現職。
専門：臨床精神医学、認知療法



岡田幸之 (おかだ たかゆき)
精神保健研究所 司法精神医学研究部長
1995年筑波大学院医学博士修了。
東京医科歯科大学難治疾患研究犯罪精神医学講座、同被害行動学、同犯罪精神医学講座、米国ノースカロライナ大学シャーロット校被害者学、米国ケースウェスタンリザーブ大学司法精神医学、東京医科歯科大学難治疾患研究所被害行動学教授等を経て2011年より現職。
専門：司法精神医学



金 吉晴 (きん よしはる)
精神保健研究所 成人精神保健研究部長
災害時こころの情報支援センター長併任
1984年京都大学医学部卒、1997年京都大学医学博士修了。国立精神・神経センター研究員、併任医師、Institute of Psychiatry, London, U. K 在外研究等を経て2002年より現職。2011年災害時こころの情報支援センター長併任。
専門：PTSDの病態と治療に関する研究、災害時精神医療に関する研究



和田 清 (わた きよし)
精神保健研究所 薬物依存研究部長
1980年千葉大学医学部卒。
総合病院国保旭中央病院 神経精神科、千葉県 精神科医療センター、米国立薬物乱用研究所 嗜癖研究センター visiting fellow、米国ワシントン大学(セントルイス) visiting researcher等を経て、1996年より現職。
専門：薬物乱用・依存の疫学的研究、乱用・依存者の属性に関する研究、中毒性精神疾患の症候学的研究



三島 和夫 (みしま かずお)
精神保健研究所 精神生理研究部長
1987年秋田大学医学部医学科卒。
秋田大学医学部精神科学講座入局、秋田大学医学部精神科学講座助手、同 講師、同 助教授、米国バージニア大学全米科学財団時間生物学研究センター、米国スタンフォード大学医学部睡眠研究センター等を経て、2006年より現職。
専門：睡眠医学、時間生物学、精神生理学、臨床精神医学



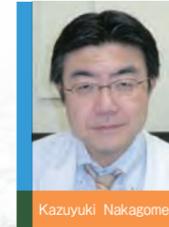
村田 美穂 (むらた みほ)
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院 特命副院長
神経内科診療部 部長およびパーキンソン病・運動障害疾患センター長併任
1984年筑波大学医学専門学群卒、1992年筑波大学院医学博士修了。筑波大学附属病院、東京都老人医療センター、東京大学医学部附属病院を経て、2004年より当院神経内科医長、2005年より第2病棟部長(神経内科)2010年よりパーキンソン病・運動障害疾患センター長併任。2012年より特命副院長併任。
専門：パーキンソン病の薬物治療、臨床薬理学、臨床遺伝学



後藤 雄一 (ごとう ゆういち)
神経研究所 疾病研究第二部長
1982年北海道大学医学部医学科卒。北海道大学医学部附属病院小児科医員、国立精神・神経センター神経研究所微細構造研究部研究員、スタンフォード大学医学部研究員、科学技術庁 長期在外研究員併任、国立精神・神経センター 武蔵病院小児神経科医長、等を経て1999年より現職。2010年 NCNP トランスレーショナル・メディカルセンター副センター長、病院遺伝カウンセリング室 医長/遺伝子検査診断室医長併任。
専門：ミトコンドリア病、神経・筋疾患、遺伝カウンセリング



花川 隆 (はなかわ たかし)
脳病態統合イメージングセンター 先進脳画像研究部長
1991年京都大学医学部卒、1999年京都大学医学研究科脳統御医学系医学博士修了。京都大学医学部附属病院、天理よろづ相談所病院医員、米国国立保健研究所脳卒中神経疾患研究所、京都大学医学研究科附属脳機能総合研究センター、国立精神・神経センター 神経研究所、NCNP 脳病態統合イメージングセンター分子イメージング研究部長等を経て、2013年より現職。
専門：脳科学、神経内科学



中込 和幸 (なかごめ かずゆき)
独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター病院 副院長
1984年東京大学医学部卒。東京大学医学部附属病院精神科、帝京大学医学部附属病院精神神経科、帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科、昭和大学医学部精神医学教室助教授、鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野教授、NCNP 上級専門職、NCNP 臨床研究支援部長、NCNP 臨床研究推進部長等を経て、2014年より現職。
専門：臨床精神医学、臨床脳波学、認知精神生理学



功刀 浩 (くぬぎ ひろし)
神経研究所 疾病研究第三部長
1986年東京大学医学部医学科卒。帝京大学医学部精神神経科学教室研修医、初石病院精神科医師、帝京大学医学部精神神経科学教室助手、ロンドン大学精神医学研究所留学、帝京大学医学部精神神経科学教室講師等を経て、2002年より現職。
専門：統合失調症、気分障害の生物学的研究(遺伝子、バイオマーカー、栄養学)



▶ 対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、広く一般の方に向けて情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリストの方
 - 取材経験 3 年以上の方
- ※受講者には「修了証」を授与致します。

▶ 講座概要

開催日程：2015 年 8 月 21 日（金）

講義時間：講義／9：15～16：00（1コマ40分×7コマ）
施設見学プログラム／16：10～17：20

定員：30 名

会場：国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 多目的室
東京都小平市小川東町 4-1-1

受講料金：無料

※研修会場までの交通費、会場での飲食等は各自のご負担となります。

プログラム終了後、18 時より懇親を兼ねた意見交換会を予定しております。奮ってご参加ください。

▶ NCNP へのアクセス

- ◆ 西武拝島線／西武多摩湖線「萩山駅」(南口)下車、徒歩 7 分
- ◆ JR 武蔵野線「新小平駅」下車、徒歩 10 分

教育研修棟へのアクセスマップ



お問い合わせ先

NCNP メディア塾事務局 担当：荒木（株式会社ココノッツ）

TEL：03-5212-4888 FAX：03-5212-4887 E-mail：mediaseminar@cocoknots.co.jp

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（NCNP）主催

第2回 NCNPメディア塾 受講生募集のご案内

2015 年 8 月 21 日（金）開催

精神・神経領域における第一線の研究者・医師たちとジャーナリストが熱く交流する場「NCNPメディア塾」を昨年に引き続き開催します。

今回は会場を国立精神・神経医療研究センターに移し、研究の現場や実験施設の見学を組み込んで、立体的な情報交換の場を目指します。



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

第2回 NCNPメディア塾 受講のご案内

脳とこころの問題と社会的課題への対応を考える

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) は、精神・神経・筋の疾病・発達障害の克服を目指すナショナルセンターです。最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることを使命としています。

ジャーナリストが精神・神経領域の取材を行うときに理解しておくべき専門的な最新の知識を学んでいただき、国民から真に求められている医療報道のあり方を第一線の研究者・医師たちとともに考える場として昨年からスタートした「NCNPメディア塾」は、幸いにも参加者のみなさまから高い評価を得ることができました。

講師陣

稲垣 真澄

いながき ますみ

精神保健研究所
知的障害研究部長



1984年鳥取大学医学部卒。
鳥取大学医学部脳神経小児科に入学、鳥取県立中央病院、国立療養所西鳥取病院、鳥取大学医学部附属病院助手、米国ウイスコンシン大学神経学教室等を経て、2008年より現職。

専門：発達障害に関する神経生理学的研究、保護者のメンタルヘルスに関する研究

岡崎 光俊

おかざき みつとし

国立精神・神経医療研究センター病院
第1精神診療部長



1993年東京医科歯科大学医学部医学科卒。
日立渚会大原神経科病院精神科、東京医科歯科大学医学部精神神経科、国立精神・神経センター武蔵病院精神科医長を経て、2013年より現職。

専門：てんかん・てんかんに関連する精神症状・臨床精神医学・臨床脳波学・脳磁図

山村 隆

やまむら たかし

神経研究所
免疫研究部長



1980年京都大学医学部卒。
財団法人住友病院神経内科、国立武蔵療養所神経センター、西ドイツマックスプランク研究所留学、ハーバード大学客員研究員、国立精神・神経センター疾病研究第六部第一研究室長を経て、1999年より現職。2007年米国臨床免疫学会副会長、2010年よりセンター病院多発性硬化症センター長併任。

専門：多発性硬化症、臨床免疫、神経内科

神尾 陽子

かみお ようこ

精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部長



1983年京都大学医学部卒。
京都大学医学部精神神経科、京都市児童福祉センター診療所精神科、ロンドン大学附属精神医学研究所留学、米国コネチカット大学フルブライト訪問研究員、九州大学大学院人間環境学研究院 助教授を経て、2006年より現職。

専門：児童精神医学、自閉症の発達認知神経科学的研究、臨床研究

大槻 泰介

おおつき たいすけ

国立精神・神経医療研究センター病院
脳神経外科診療部長
てんかんセンター長併任



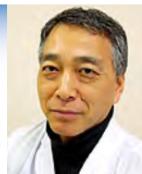
1985年東北大学医学部大学院修了。
国立療養所宮城病院脳神経外科医長、東北大学医学部脳神経外科非常勤講師、(財)広南会広南病院脳神経外科副部長、国立精神・神経センター武蔵病院手術部長を経て、2002年より現職。

専門：てんかんの外科治療、機能的脳神経外科

後藤 雄一

ごとう ゆういち

メディカル・ゲノムセンター長
神経研究所 疾病研究第二部長併任
TMC 副センター長併任



1982年北海道大学医学部医学科卒。
北海道大学医学部附属病院小児科、国立精神・神経センター神経研究所微細構造研究部、スタンフォード大学医学部、科学技術庁、等を経て1999年より神経研究所疾病研究第二部長。2015年よりメディカル・ゲノムセンター長、TMC 副センター長、センター病院遺伝カウンセリング室 医長、同 遺伝子検査診断室 医長併任。

専門：ミトコンドリア病、神経筋疾患、遺伝カウンセリング

西野 一三

にしの いちぞう

神経研究所 疾病研究第一部長
メディカル・ゲノムセンター
ゲノム診療開発部長併任



1989年京都大学医学部医学科卒。
東京都立神経病院 神経内科、国立精神・神経センター神経研究所 微細構造研究部、コロンビア大学神経内科を経て、2001年より現職。2012年より国立精神・神経医療研究センターメディカル・ゲノムセンター ゲノム診療開発部長併任。

専門：筋疾患の病態解明と治療法開発、筋病理学

中川 栄二

なかがわ えいじ

国立精神・神経医療研究センター病院
外来部長、小児神経科医長



1989年筑波大学医学部卒。
カナダ プリティッシュ・コロンビア大学神経科留学、獨協医科大学小児科講師を経て、2003年よりセンター病院小児神経科医長。2014年より同 外来部長併任。

専門：小児神経、てんかん、発達障害

今村 道博

いまむら みちひろ

神経研究所
遺伝子疾患治療研究部
薬物治療研究室長



1984年国際基督教大学教養学部卒。
筑波大学大学院医学研究科、筑波大学基礎医学系薬理学講師、群馬大学医学部薬理学講座 助手、国立精神・神経センター神経研究所機能研究部室長、同 遺伝子疾患治療研究部室長を経て、2010年より現職。

専門：生化学、分子細胞生物学、薬理学

プログラム

	時間	テーマ/内容	講師
	9:15	オリエンテーション	
1	9:30 ～ 10:10	勉強が苦手な子ども達にひっそり隠れている「学習障害」 生まれつき文字の読み書きだけが苦手、というディスレクシアの子ども達。合理的配慮の観点から、一人ひとりの得意分野を見極めて、効果的な治療法を提案することが今後、求められます。見分け方、接し方の科学的根拠を解説します。	稲垣 真澄
2	10:20 ～ 11:00	発達障害は治るのか 発達障害は、乳幼児期から成人期・老年期までその人の長い人生を貫いて続く、いわば脳と行動の特性、といえます。長い時間のなかで生まれつきの素因と環境がからみあうなかで、一人ひとりの個人差もはっきりしていきます。発達障害の人々が社会に参加してその人の能力を発揮できるように必要な治療や教育について、今わかっていることを解説します。	神尾 陽子
3	11:10 ～ 11:50	次世代シーケンサーが変える神経・筋疾患医療 神経・筋疾患の多くは遺伝性疾患です。その原因遺伝子は、もっている情報が膨大なために、これまで容易に調べることができませんでした。次世代シーケンサーの出現によりこのような技術的な問題が克服されつつあります。技術革新によって診断のフローチャートが大きく変わろうとしている今の時代において、克服すべき問題と将来への展望を議論したいと思います。	西野 一三
昼休憩 (60分)			
4	12:50 ～ 13:30	てんかんと正しく知るために てんかんは「大脳ニューロンの過剰な発射に由来する反復性の発作を主徴とする脳疾患」と定義されますが、その病因・症状はさまざまです。てんかんという病名はイメージがしにくい病気であり、それゆえしばしば多くの誤解を受けることもあります。てんかんは決して珍しい病気ではなく、われわれはてんかんについて正しく知る必要があります。てんかんと多くの人に正しく知ってもらおうにはどのようにしたらいいか、考えていきたいと思えます。	岡崎 光俊
5	13:40 ～ 14:20	わが国のてんかん医療の現状と課題 てんかんは小児から高齢者までどの年齢でも発症する患者数の多い病気です。また地域におけるてんかん医療の充実、病気に関わる自動車運転事故を防止する上でも大変重要な課題です。わが国のてんかん医療を充実させる上での課題と方策について、厚労省研究班の成果を基に地域医療連携の観点から解説します。	大槻 泰介
6	14:30 ～ 15:10	発達障害の誤解を解く 発達障害は生まれつき脳の一部の機能障害が原因と言われていますが、発達障害の臨床診断技術や遺伝学的な解明はどの程度まで進んでいるのでしょうか。また薬物治療の現状と開発についてわかりやすく解説します。	中川 栄二
7	15:20 ～ 16:00	多発性硬化症：謎の難病は生活習慣病？ 多発性硬化症 (MS) は患者数が急速に増加している中枢神経の難病です。日本人の登録患者数は、この30年で10倍以上も増加しており、生活習慣の欧米化が原因ではないかと言われてきました。私たちは腸内細菌叢の乱れに着目して研究を進めていますが、今まさにMSが腸内環境の乱れによって生じる現代病であることが証明されつつあります。MSの病因から将来の治療まで解説します。	山村 隆

施設見学プログラム			
	16:10	オリエンテーション	
8	16:20 ～ 17:20	患者に始まり患者に戻る診断システム ～メディカル・ゲノムセンター～ ゲノム医療とは、個人のゲノム・遺伝子情報をもとにしてその人の疾病・症状に適した医療を行うことです。患者に始まり患者に戻る診断プロセスについて、筋疾患診断を中心にその流れがわかるように施設を見ていただきます。	後藤 雄一
		筋ジストロフィー犬と核酸医薬 ～実験動物研究施設～ 筋ジストロフィーのモデル犬を飼育・繁殖し、筋ジストロフィーの病態解明と治療法開発のための研究を行っています。このモデル犬を実際に見ていただきながら、筋ジストロフィーに対する治療法の中で最も患者さんに近いと言われている核酸医薬についても解説します。	今村 道博
	18:00～	意見交換会	

対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、広く一般の方に向けて情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリスト
- 取材経験 3 年以上の方

※受講者には「修了証」を授与致します。



講座概要

開催日程： 2016年8月26日(金)

講義時間： 9:15～16:30 (講義/1コマ50分×6コマ)
施設見学プログラム/16:30～17:45

定員： 30名

会場： 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール
東京都小平市小川東町 4-1-1

受講料金： 無料 ※研修会場までの交通費、会場での飲食等は各自のご負担となります。

プログラム終了後、18:30より懇親を兼ねた意見交換会を予定しております。奮ってご参加ください。

NCNPへのアクセス

- 西武拝島線/西武多摩湖線「萩山駅」(南口)下車、徒歩7分
- JR武蔵野線「新小平駅」下車、徒歩10分



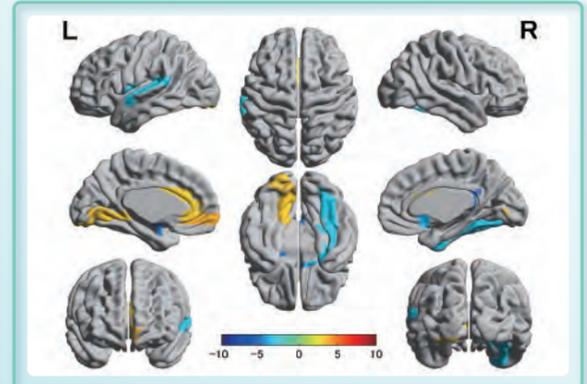
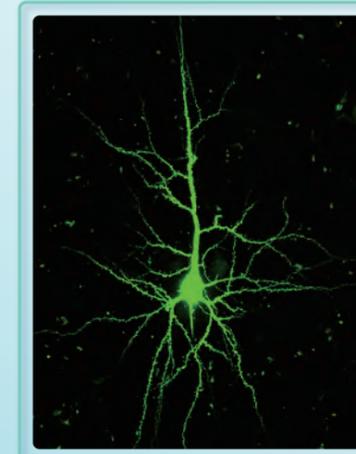
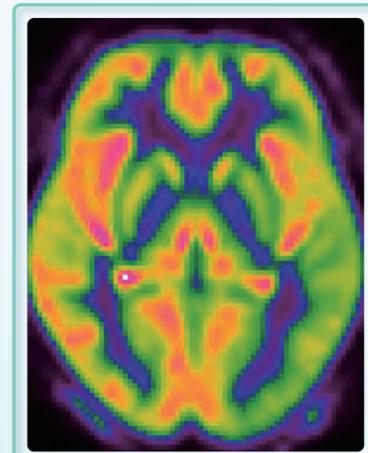
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 主催

第3回 NCNPメディア塾

受講生募集のご案内

2016年8月26日(金) 開催

精神・神経領域における最先端の研究や取り組みを学び、
第一線の研究者や医師たちとジャーナリストが熱く交流する「NCNP メディア塾」。
第3回となる今年も、昨年人気の高かった NCNP の施設見学プログラムを
取り入れ、立体的な情報交換の場の創造を目指します。



お問い合わせ先 | **NCNPメディア塾事務局** 担当：荒木・青木 (株式会社ココノッツ)

TEL | 03-5212-4888 FAX | 03-5212-4887

E-mail | mediaseminar@cocoknots.co.jp

NCNPメディア塾ホームページでもお知らせします | <http://www.ncnp.go.jp/press/mediaseminar.html>



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

第3回 NCNPメディア塾 受講のご案内

脳とこころの問題と社会のあり方を考える

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) は、精神・神経・筋の疾病・発達障害の克服を目指すナショナルセンターです。最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることを使命としています。

「NCNPメディア塾」は、ジャーナリストの皆さまに精神・神経領域の取材を行うときに理解しておくべき最新の専門的かつ基本的知識を学んでいただき、国民の求める医療報道のあり方を第一線の研究者・医師と共に考える場として2014年に始まりました。

第3回 NCNPメディア塾は2016年8月26日(金)に1日集中コースとして開催します。社会的関心の高い薬物事件の報道に関する意見交換や認知症の予防と治療への取り組み、犯罪者の精神医療の実態や、メンタルヘルスの問題に対する認知行動療法による復職支援、臨床開発にイノベーションを起こす希少疾患への取り組みの意義など、多彩な内容をジャーナリストの皆さまと一緒に考えてまいります。

医療の取材・報道をされるジャーナリストの皆さまのご参加をお待ちしております。

講師陣



松本 俊彦
まつもと としひこ
精神保健研究所
薬物依存研究部
部長

1993年佐賀医科大学医学部卒。
国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所 司法精神医学研究部、同自殺予防総合対策センターを経て、2015年より現職。

専門：薬物依存症、自殺予防



松田 博史
まつだ ひろし
脳病態統合イメージングセンター
センター長

1979年金沢大学医学部卒。
金沢大学医学部核医学科、カナダモントリオール神経学研究所、金沢大学医学部核医学科、国立精神・神経センター武蔵病院放射線診療部長、埼玉医科大学国際医療センター核医学科教授、診療科長を経て、2012年より現職。

専門：脳核医学、脳画像解析



横井 優磨
よこい ゆうま
国立精神・神経医療研究
センター病院
第一精神診療部 医員

2004年東京医科歯科大学医学部卒。
千葉西総合病院、国立国際医療研究センター病院精神科、さいがた病院精神科、ジョンズ・ホプキンス大学老年精神医学教室留学を経て、2013年より現職。

専門：老年精神医学



村田 美穂
むらた みほ
国立精神・神経医療研究
センター
理事・病院長

1992年筑波大学大学院医学研究科修了。
東京大学医学部附属病院神経内科、東京都老人医療センター神経内科、国立精神・神経センター武蔵病院神経内科を経て、2010年より国立精神・神経医療研究センター病院神経内科診療部長、パーキンソン病・運動障害疾患センター長、2016年より現職。

専門：パーキンソン病の治療、神経内科学、臨床薬理学、臨床遺伝学



平林 直次
ひらばやし なおとく
国立精神・神経医療研究
センター病院
第2精神診療部長

1986年東京医科大学医学部卒。
東京医科大学精神医学教室、国立精神・神経センター武蔵病院精神科、ロンドン大学司法精神医学研修を経て、2010年より現職。2010年より同精神リハビリテーション部長、2015年同認知行動療法センター臨床診療部長併任。

専門：司法精神医学



堀越 勝
ほりこし まさる
認知行動療法センター
センター長

1995年米国バイオラ大学大学院修了。
ハーバード大学医学部精神科、筑波大学大学院人間総合科学研究科、駿河台大学臨床心理学研究科教授、国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター研修指導部長を経て2016年より現職。

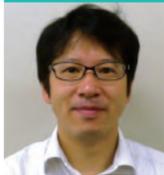
専門：精神療法全般、認知行動療法、行動医学、うつ・不安身体化の臨床研究



武田 伸一
たけだ しんいち
神経研究所
所長

1981年信州大学大学院修了。
信州大学医学部付属病院第三内科、フランス・パリ・パストゥール研究所、国立精神・神経センター神経研究所室長、同研究所遺伝子疾患治療研究部長、トランスレーショナル・メディカルセンター長を経て2015年より現職。遺伝子疾患治療研究部長併任。

専門：骨格筋と筋疾患の分子生物学、分子治療学



中村 治雅
なかむら はるまさ
トランスレーショナル
メディカルセンター
臨床研究支援部
臨床研究支援室長

1999年京都府立医科大学医学部卒。
京都大学医学部付属病院、浜松労災病院内科神経内科、国立精神・神経センター武蔵病院神経内科、PMDA 新薬審査第3部、国立精神・神経医療研究センター病院神経内科、Institute of Human Genetics, Newcastle University, U.K. 客員研究員、PMDA 新薬審査第3部を経て、2014年より現職。

専門：医薬品評価学、レギュラトリーサイエンス、臨床神経学



後藤 雄一
ごとう ゆういち
メディカル・ゲノムセンター
センター長
神経研究所 疾病研究第二部長併任
/TMC副センター長併任

1982年北海道大学医学部卒。
北海道大学医学部付属病院小児科、国立精神・神経センター神経研究所、スタンフォード大学医学部、科学技術庁を経て1999年より国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部長。2015年より現職。TMC 副センター長、センター病院 遺伝カウンセリング室医長、遺伝子検査診断室医長併任。

専門：ミトコンドリア病、神経筋疾患、遺伝カウンセリング

プログラム

	時間	テーマ/内容	講師
	9:15	オリエンテーション	
1	9:30 ～ 10:20	薬物事件報道の倫理を考える ～断罪か、啓発か～ 清原元選手の覚せい剤取締法事件をめぐる報道は、これまでにない過熱ぶりを見せました。薬物事件には犯罪という側面と精神保健的問題としての側面があります。薬物依存症の専門医の立場から見ると、そうした報道が当事者やその家族を深刻に追い詰めている現実を実感します。そこで、薬物事件報道の倫理について私見を述べさせていただき、メディアの皆さまと意見交換をしたいと考えています。	松本 俊彦
2	10:30 ～ 11:20	認知症有病率増加をくい止める ～健常者レジストリから謎を解き明かす～ 生活習慣と認知症との関連性を明らかにし、発症の予防をしようとするインターネットを用いた健常者のレジストリシステム (Integrated Registry Of Orange Plan; IROOP) が始まっています。このプロジェクトの認知症予防と新規治療薬開発につながる仕組みについて解説します。	松田 博史
		認知症を「治す」とは？ 認知症を根本的に治療する薬はまだ存在しません。では、医者には認知症の何に立ち向かうのか。認知症の中核症状と言われる認知機能だけでなく、周辺症状への対処、家族や介護者の負担を減らしたり、治らない認知症の治療を意義あるものにするための取り組みや臨床研究などについて解説します。	横井 優磨
3	11:30 ～ 12:20	パーキンソン病と睡眠の意外な関係 パーキンソン病の患者さんは睡眠障害を生じることが多いことが知られていますが、パーキンソン病のなりやすさ、なりにくさにレム睡眠が関係している可能性が高いことがわかってきました。睡眠の是正を通した新しいパーキンソン病医療の試みなどを紹介します。	村田 美穂
昼休憩 (70分)			
4	13:30 ～ 14:20	重大な他害行為を行った精神障害者に対する医療の実情 犯罪事件後に、犯罪者の精神障害が明らかになると刑事責任能力に疑問が持たれ、実名報道は自粛されます。さらに、その後どのような医療を受け、どのように社会復帰を果たしているかについてはほとんど知られることはありません。事件後に行われる犯罪者に対する精神医療の実態や治療成績について解説します。	平林 直次
5	14:30 ～ 15:20	就労者の生活を回復させる ～認知行動療法で復職支援～ メンタルヘルスの問題で休職する者の約4割は復職できずに退職しています。その原因として休職可能な期間が短いことと復職後の支援体制の不備が挙げられています。しかし、休職期間を延ばすことは企業にとって痛手であり、早く戻し過ぎると離職するという「卵が先かにかわとりが先か」のジレンマに直面します。そこで、「卵を産むにかわとり」を作る認知行動療法による復職支援についてお話しします。	堀越 勝
6	15:30 ～ 16:20	希少疾患の取り組みが臨床開発にイノベーションを引き起こす 希少性疾患に対する取り組みが他の疾患の治療薬開発にも役立つことが理解されるようになってきました。NCNPが世界に誇る筋ジストロフィーの研究から医師主導治験まで、さらに、医薬品医療機器開発に必要なブレイクスルーの道、クリニカルイノベーションネットワーク構想をご紹介します。	武田 伸一 中村 治雅

施設見学プログラム

	16:30	オリエンテーション	
7	16:45 ～ 17:45	患者に始まり患者に戻る診断システム【メディカル・ゲノムセンター】 ゲノム医療とは、個人のゲノム・遺伝子情報を基にして、その人の疾病・症状に適した医療を行うことです。患者に始まり患者に戻る診断プロセスについて、筋疾患診断を中心にその流れがわかるように施設をご案内します。	後藤 雄一
		認知症の画像研究の最前線とIROOP【脳病態統合イメージングセンター】 1cc以下の体積を正確に測定し、脳内のネットワーク情報を得られるMRI。アルツハイマー病の原因といわれるアミロイド斑やタウ蛋白の蓄積を画像化するPET。これら認知症に対する最先端の画像研究や高性能な装置と解析システム、さらに「IROOP」の実際をご覧ください。	松田 博史

17:50～	修了式・記念撮影
18:30～	意見交換会

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 主催

第4回 NCNPメディア塾

受講生募集のご案内

2017年8月25日(金) 開催



脳とこころの問題と社会のあり方を考える

精神・神経領域における最先端の研究や取り組みを学び、
第一線の研究者や医師たちとジャーナリストが熱く交流する「NCNPメディア塾」。
第4回となる今年は、社会的に関心の高いテーマを中心に、講義とユニークな研究施設見学を
あわせたプログラム構成で、立体的な情報交換の場を目指します。



ジャーナリストとNCNPの共創の場

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) は、精神・神経・筋の疾病・発達障害の克服を目指すナショナルセンターです。最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることを使命としています。

「NCNPメディア塾」は、ジャーナリストの皆さまに精神・神経領域の取材を行うときに理解しておくべき最新の専門的かつ基本的知識を学んでいただき、国民の求める医療報道のあり方を第一線の研究者・医師と共に考える場として2014年に始まり、今年で4年目を迎えました。

今年のNCNPメディア塾では、社会的関心の高い薬物依存・危険ドラッグ、てんかん、発達障害、うつに関する講義や、睡眠実験室、森林環境を再現した施設の見学プログラムなど、多彩な内容のカリキュラムを通じてジャーナリストの皆さんとの意見交換の場を創造いたします。

医療の取材・報道をされるジャーナリストの皆さまのご参加をお待ちしております。

▶ 対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、広く一般の方に向けて情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリスト
 - 取材経験3年以上の方
- ※受講者には「修了証」を授与致します。

▶ 講座概要

日程：2017年8月25日(金)
 時間：9:10～18:20
 定員：30名
 会場：国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール (東京都小平市小川東町4-1-1)
 料金：無料 ※研修会場までの交通費、会場での飲食等は各自のご負担となります。

プログラム終了後、18:25より懇親を兼ねたディスカッション交流会を予定しております。奮ってご参加ください。

▶ NCNPへのアクセス

- 西武拝島線／西武多摩湖線
「萩山駅」(南口)下車 徒歩7分
- JR武蔵野線
「新小平駅」下車 徒歩10分



第3回講義風景

時間	テーマ/内容	講師
9:10	オリエンテーション / 理事長挨拶	
9:30 ~ 10:20	1 薬物依存 (1) 薬物事件の報道をする際に知っておいてほしいこと 昨年は、著名人が薬物問題で逮捕される事件が立て続きに起き、メディアの報道も加熱の一途をたどりました。しかし、逮捕された人を徹底的に叩き、人格や業績を否定するような報道は、本人だけでなく、薬物依存症からの回復に努力している患者に無視できない影響を与えています。そこで今回、専門家の立場から「薬物事件報道で気をつけてほしいこと」、「国民に伝えてほしい薬物問題の真実」についてお話します。	松本 俊彦
	薬物依存 (2) 未知の危険ドラッグを簡単に発見する技術 一昨年、危険ドラッグの蔓延が大きな社会問題となりました。規制強化に伴い流通は下火になりましたが、危険ドラッグを迅速に検出する技術は存在せず、そのシステム構築が課題となっています。そこで今回は、現在開発中の危険ドラッグ検出技術を紹介いたします。	船田 正彦
10:30 ~ 11:20	2 てんかん (1) 手術で治すてんかん てんかん発作は自動車運転の制限や社会的偏見など患者の生活に大きな障がいをもたらします。手術によって、薬が効かないてんかん発作が劇的に改善することがあり、患者にとっては人生を変える治療 ("Life-changing procedure") となりますが、わが国では医療体制の問題などから治療へのアクセスが不十分です。てんかん外科に対する私たちの取り組みを紹介いたします。	岩崎 真樹
	てんかん (2) わが国のてんかんの診療連携の現状と課題 -てんかん診療全国拠点としてのまとめから- 厚生労働省は「全国てんかん対策地域診療連携体制整備事業」を開始し、8県で地域拠点機関を選定、NCNPはその統括として全国拠点機関に採択されました。また、てんかん診療の地域連携体制を確立することを目指して、ステークホルダーが一堂に会する全国てんかん対策連絡協議会を組織しました。その現状・背景、対応、効果、課題の検討等を紹介いたします。	須貝 研司
11:30 ~ 12:20	3 これからの地域社会は発達障害児とその家族をどのように支えていくのか 発達障害にはいまだ根本治療はありませんが、早期療育は予後を変えうることがわかっており、早期発見と早期支援が重要です。発達障害児が成長する過程で必要とする支援の内容、支援する側の専門性は複数の領域にわたり、個々の内容も変化します。そのため、発達障害に特化した専門機関に依存する体制ではなく、国レベル、地域レベルでの連携が求められています。今回は、全国で始まろうとしている発達障害に対する地域支援のコンセプトとエビデンスについてお話します。	神尾 陽子
12:30	ランチタイムセミナー (多目的室)	和田 圭司
13:30	記念撮影	
13:40	施設見学プログラムオリエンテーション	
13:55 ~ 14:55	4 施設見学プログラム (1) 時間隔離実験室：睡眠と生体リズムの精密評価 多人数同時の終夜睡眠ポリグラフ検査と時間環境要因(室温、湿度、照度、音)を統制した体内時計機能の精密評価を可能とする世界有数の大規模隔離実験室の特色と、ヒトの生体試料を活用した新しい体内時計評価法の開発についてご紹介し、ヒトの睡眠状態や生体リズム(体内時計)を精度高く測定する手法とその意義について理解していただきます。	肥田 昌子 北村 真吾
	(2) 聞こえない音で脳と心を癒やすハイパーソニック・セラピーの開発 人間をとりまく情報環境は、脳での情報処理を通して、化学物質と同じように人間に作用します。人間の耳に聞こえない超高音波を豊富に含む自然環境音が中脳や間脳を活性化させる現象(ハイパーソニック・エフェクト)を応用した、精神・神経疾患に対する新しい非薬物療法の開発に向けた取り組みをご紹介します。	本田 学
15:05 ~ 15:55	5 うつ病の予防・治療における魚油の可能性 うつ病の患者数もうつ症状で苦痛を感じている人も非常に多い現在、うつ病に対する薬物療法以外のアプローチがより必要とされています。その中の一つである魚油について、これまでのエビデンスに基づいて詳しく解説します。	西 大輔
16:05 ~ 16:55	6 Gift of HOPE -心をつなぐ生前登録のブレインバンク 「ブレインバンク」では通常の病理診断に加えて、脳や神経・筋肉の病気の原因究明と治療法の開発・研究のために、検体を保管・管理し、研究のために試料の提供を行います。私達は、御本人が生存中に「自分の死後、自分の脳や脊髄等をブレインバンクに寄託します」という篤志を明示して頂く生前登録を行っております。その活動を紹介いたします。	齊藤 祐子
17:05 ~ 17:55	7 難病、希少疾患の臨床開発における昨今の動向と、革新的治療法開発 難病法の施行以降、難病の治療法開発をとりまく環境は、日々変わっています。昨今の、規制や開発手法の動向を説明するとともに、難病を対象にした研究成果を踏まえて、NCNPが中心となって取り組む革新的な分子標的治療薬や低分子医薬品などの開発の一端を紹介いたします。	中村 治雅 青木 吉嗣
18:05	修了式・アンケート	
18:25	ディスカッション交流会 (多目的室)	全講師出席

講師プロフィール



Toshihiko Matsumoto

松本 俊彦 (まつもと としひこ)

精神保健研究所 薬物依存研究部長

1993年佐賀医科大学医学部卒。国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所 司法精神医学研究部、同自殺予防総合対策センターを経て、2015年より現職。

専門：薬物依存症、自殺予防



Masahiko Funada

船田 正彦 (ふなだ まさひこ)

精神保健研究所 薬物依存研究部・
依存性薬物研究室長

1994年星薬科大学大学院修了。米国立衛生研究所(NIH)、薬物乱用研究所(NIDA)、第一薬科大学薬学部薬理学教室 専任講師、国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部 依存性薬物研究室長を経て、2015年より現職。

専門：危険ドラッグの薬物依存性並びに毒性の評価研究



Masaki Iwasaki

岩崎 真樹 (いわさき まさき)

国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経外科
診療部長

2001年東北大学大学院医学系研究科修了。米国クリーブランドクリニック神経内科、広南病院脳神経外科、東北大学病院脳神経外科助教、同脳神経外科学・脳血管内治療科医局長、同脳神経外科講師を経て、2016年より現職。

専門：てんかん、てんかんの外科治療、臨床神経生理



Kenji Sugai

須貝 研司 (すがい けんじ)

国立精神・神経医療研究センター病院 てんかんセンター長
/小児神経科主任医長

1981年東京大学医学部医学科卒。神奈川県立こども医療センター、国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科医長、米国ハーバード大学ボストン小児病院神経内科リサーチフェロー、2004年国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科主任医長等を経て、2016年より現職。

専門：小児神経の臨床、てんかんの治療



Yoko Kamio

神尾 陽子 (かみお ようこ)

精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部長

1983年京都大学医学部卒。京都大学医学部精神神経科、大阪赤十字病院精神神経科、京都市児童福祉センター診療所精神科、ロンドン大学付属精神医学研究所、米国コネチカット大学、九州大学大学院人間環境学研究院助教を経て、2006年より現職。2010年より山梨大学客員教授併任。

専門：児童精神医学、自閉症の発達認知神経科学的研究、臨床研究



Akiko Hida

肥田 昌子 (ひだ あきこ)

精神保健研究所 精神生理研究部 精神生理機能研究室長

2000年東京大学大学院医学系研究科修了。理化学研究所ゲノム科学総合センターリサーチアソシエイト、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター特別研究員、ヴァンダービルド大学生物科学科リサーチアソシエイトを経て、2009年より現職。

専門：時間生物学、分子遺伝学



Shingo Kitamura

北村 真吾 (きたむら しんご)

精神保健研究所 精神生理研究部 臨床病態生理研究室長

2001年九州大学大学院芸術工学研究院修了。九州大学ユーザーサイエンス機構、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部研究員、英国サリー大学 Visiting Fellowを経て2014年より現職。

専門：睡眠・リズム障害の病態生理研究、睡眠不足・リズム脱同調の健康影響



Manabu Honda

本田 学 (ほんだ まなぶ)

神経研究所 疾病研究第七部長
/脳病態統合イメージングセンター 副センター長 併任

1995年京都大学大学院医学研究科修了。米国立衛生研究所、京都大学大学院医学研究科臨床脳生理学部門、岡崎国立共同研究機構(現・自然科学研究機構) 生理学研究所准教授を経て、2005年より現職。2011年より、同脳病態統合イメージングセンター副センター長を併任。

専門：システム神経科学、臨床神経生理学、情報環境学



Daisuke Nishi

西大輔 (にし だいすけ)

精神保健研究所 精神保健計画研究部 システム開発研究室長

2000年九州大学医学部卒。国立病院機構災害医療センター精神科科長を経て2012年より現職。2016年より東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神保健政策学分野連携講座准教授を併任。

専門：精神保健学、うつ病・PTSDの予防、栄養精神医学、産業精神保健、レジリエンス



Yuko Saito

齊藤 祐子 (さいとう ゆうこ)

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 医長

1992年東北大学医学部卒。国立水戸病院内科、東京大学神経内科、東京都老人医療センター神経内科、国立療養所下志津病院神経内科、米ノースカロライナ大学神経病理、都老人総合研究所神経病理・都老人医療センター高齢者ブレインバンクを経て、2009年より現職。

専門：神経病理、神経内科



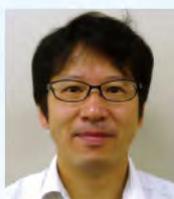
Yoshitsugu Aoki

青木 吉嗣 (あおき よしつぐ)

神経研究所 遺伝子疾患治療研究部 室長

2001年東北大学医学部卒業。2011年東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了。2012-15年オックスフォード大学生理・解剖・遺伝学部に留学。2015年より現職。オックスフォード大学客員准教授を併任。2016年より東京医科歯科大学連携大学院准教授、東京農工大学工学部客員准教授、早稲田大学理工学部非常勤講師を併任。

専門：筋病学、神経内科学、分子生物学、核酸医学



Harumasa Nakamura

中村 治雅 (なかむら はるまさ)

トランスレーショナルメディカルセンター 臨床研究支援部 臨床研究支援室長

1999年京都府立医科大学医学部卒。京都大学医学部付属病院、浜松労災病院内科神経内科、国立精神・神経センター武蔵病院神経内科、PMDA新薬審査第3部、国立精神・神経医療研究センター病院神経内科、Institute of Human Genetics, Newcastle University, U.K. 客員研究員、PMDA新薬審査第3部を経て、2014年より現職。

専門：医薬品評価学、レギュラトリーサイエンス、臨床神経学

お問合わせ

NCNPメディア塾事務局 担当：荒木・青木(株式会社ココノッツ)

TEL | 03-5212-4888 FAX | 03-5212-4887 E-mail | mediaseminar@cocoknots.co.jp

NCNPメディア塾ホームページでもお知らせします ▶ <http://www.ncnp.go.jp/press/mediaseminar.html>